

北九州市民の会ニュース

反対意見相次ぐ、区域区分見直し、

市民説明会と市議会12月定例会での動き

■ 萩が丘校区の市民説明会

11月10日、萩が丘校区の市民説明会では、居住者25名の申請枠で25名が参加し、2時間5分で参加者の発言14名、70件の質問・意見がだされました。いずれも「市街化調整区域からはずしてほしい」との意見が次々にだされましたが、市は「白紙撤回は考えてない、皆様の意見を受け止めて100%というのはむずかしい」と答えました。

また、「基本方針に地域の合意形成が得られない場合は市街化区域を維持するとなっているのがこれが嘘なのですか」に対して「個別ですみません」と言葉が濁しました。さらに「今回の逆線引きは法律の主旨と違うが何故か」の質問に市は「都市計画を定めた時は、そのようなことであったと思うが、国の指針で人口減少等の場所については調整区域に変更していくように明記されていて、その方針に沿って今検討をいます」と答弁しました。

「レッドゾーンやイエローゾーンを決める時に地質調査などはされているのでしょうか」の質問に市は「地質を確認しているとかの質問は、土砂災害特別区域は福岡県が所管しているので、私は知らない」と答えることができない」としました。

■ 小倉北区 熊谷

11月12日に行われた、小倉北区熊谷の説明会では「今回の市民説明会を10日前に知った。今回の見直しの目的は何か、災害をなくすことか、山の地質調査はしたのか。土石流が発生する恐れがあるところなのか」「私たちの財産がどうなるのか、家を処分して、老後の費用に当てようと思っていたがそれもできなくなる」、「土地や家屋の市場価値が下がる、不動産売買がゼロになっている。子々孫々まで不良物件を負わなければならない」など、住民から「提案はやめてほしい」という立場での発言が繰り返されました。これに対して市当局は「反対でしたら意見書を書いていただきたい」「見直して再度提案します」と質問への真面目な回答は聞かれませんでした。

■ 門司区 永黒

門司区永黒のNさんは、11月に行われた市民説明会

があったことを知りませんでした。後日、自分の家が市街化調整区域へ見直しされていることがわかり、12月2日に北九州市役所の建築都市局を訪れて説明を求めました。Nさんの宅地はバス道路に面していますが、その地域は、250mメッシュで、災害の恐れ、交通の利便性、人口減少を点数で示されていることを聞き、具体的に点数を聞いてみると、Nさんの土地の半分の左側が40点以下で右側が50数点となっており、こんな方法で決められていることに理解できないと撤回を求めました。

■ 12月市議会 本会議

12月議会の本会議では、区域区分の見直しについて西田議員（自民の会）と高橋議員（共産党）が質問しました。

いずれも市民説明会の中で出されている住民の意見が紹介され、提案の撤回を求める質問が行われました。市は意見書の締め切りを3月末までとしていましたが、市民説明会の状況を踏まえて受け期間を柔軟に見直しとしました。また、令和5年度の都市計画についても令和5年度にこだわらず柔軟に対応すると答弁しました。

区域区分見直し交流 NEWS 2号

令和3年3月末意見書締め切りを、受付期間を柔軟に見直す

■ 12月議会の本会議では、区域区分の見直しについて西田議員（自民の会）と高橋議員（共産党）が質問しました。11月19日市民説明会の中で出されている住民の意見が紹介され、提案の撤回を求める質問が行われました。西田議員は11月19日の小倉南区葛原の説明会に参加して、参加した40名の参加者の反応は、ほんのり感動だと思った。出された意見は「長年わたり市街化調整区域の税金を納めてきた。移転しつづけるなら金銭の補償をしろ」「懸命に住宅ローンを支払いながら資産を守ってきた。価格を下げるなら金融の補償をしろ」など紹介しました。西田議員は北九州市の現状と将来を考えると区域区分の見直しは、総論で反対には慎重な態度であるが、しかし、この地域では区域区分の見直しを進めるのは不可能と考えると述べました。高橋議員は「評価額が2800万円の土地を800万円で作ることになった」「新聞報道で既に風評被害が出ている」「土地を担保に銀行とローンを組んできた。転居に対する補償はないのか」等、多くの不安と不満の声が上がっていると、質疑の誠意・徹底は否定できない。意見は修正案に繋げると言われたとしても撤回はまた元に戻るとは考えられない。補償の必要がないでは済まされない。大きな失策であり、勇み足ではないかと指摘しました。市は意見書の締め切りを3月末までとしていますが、市民説明会の状況を踏まえて受け期間を柔軟に見直すこととしました。また、令和5年度の都市計画についても令和5年度にこだわらず柔軟に対応すると答弁しました。

市民説明会に参加して、疑問や意見をドシドシ出しま

期日	時間	会場
12/17(月)	19:00	小倉公民館
12/18(火)	18:30	東郷市民センター
12/19(水)	18:30	東郷市民センター
12/20(木)	19:00	小倉北公民館
12/21(金)	15:00	小倉北公民館
12/22(土)	18:30	小倉北市民センター
12/23(日)	18:30	小倉北市民センター
12/24(月)	19:00	小倉北市民センター
12/25(火)	19:00	小倉北市民センター
12/26(水)	19:00	小倉北市民センター
12/27(木)	19:00	小倉北市民センター
12/28(金)	19:00	小倉北市民センター
12/29(土)	19:00	小倉北市民センター
12/30(日)	19:00	小倉北市民センター

◎意見書は必ず提出しましょう
市主催の説明会場で配布される資料の中に「意見書」が入っています。それぞれの意見を書いて必ず提出しましょう。市は説明会で意見が出なければ「市の説明を聴解してもらった」と勝手に判断します。そうならないよう、意見書にきっちり書いて意思を表明しましょう。
地域での説明会のあとに地権者への説明会があります。個別に郵送されます。意見書は郵送やFAX等で必ず届けてください。

平和とくらしを守る北九州市民の会

〒803-0817 小倉北区田町13-21 田町ビル3F
Tel. 093-592-5000 FAX 093-571-4346
http://siminnokai.sakura.ne.jp
e-mail: koe@siminnokai.com

(市民の会事務局)

地区労連が第80回評議員会 雇止め闘争への支援を訴え

12月10日(金)、北九州地区労連は、第80回評議員会を開催。評議員・役員合わせて39人が参加。評議員会は、安達副議長の開会あいさつで始まり、議長団選出、永富議長挨拶、資格審査・議事運営委員会報告の後、議事に入りました。

2021年秋季年末闘争経過報告、第1・2四半期収支報告の後、2022年春闘方針骨子案が提案されました。高瀬県会議員が激励の挨拶と県議会報告。健和会労組荒牧評議員から、「2021年春闘から秋季年末闘争での健和会労組の取り組み、いのちをまもる緊急行動を成功させ、新しいいのちをまもる署名の取り組みに多くの方のご協力を！」と発言。北九州地域ユニオンの増田評議員は、「北九州市の指定管理者である北九州埠頭から理不尽な雇止めを通告され、民



事裁判で地位確認など請求事件を争っている闘いへの支援の訴え」の発言がありました。堀田事務局長からまとめの発言の後、永吉副議長の閉会あいさつ、永富議長のサイレント団結がんばろうで閉会しました。

(堀田和夫氏FBより)



日本共産党北九州市議団主催講演会

『どうする気候危機 持続可能な道はあるのか』

明日香壽川・東北大学教授が分かりやすく解説

日本共産党北九州市議団主催の講演会「どうする気候危機 持続可能な道はあるのか」が12月19日午後、市立商工貿易会館(小倉北区)であり、明日香壽川・東北大学教授が「世界と日本のエネルギー・温暖化政策の現状と課題」と題して講演しました。120人を超える市民がかけつけました。

明日香教授は先月、英国グラスゴーで開かれた国連気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)の成果を解説し、気温上昇目標の見直しや石炭火力発電の段階的削減の取り組み、気候基金などの現状、課題について言及しました。

また明日香教授も参加する「未来のためのエネルギー転換研究グループ」が取りまとめたレポート「2030」についても説明し、再生エネと省

エネへのエネルギー転換で、年間254万人の雇用が創出されることなど、気候危機回避と地域発展が同時に実現できると訴えました。

質疑応答で会場からの「気候危機に対して、市民に出来ることはあるのか」との問いに、明日香教授は「建物の断熱化、再エネの電力会社に変える、日頃の交通手段など、多くの取り組みができる」とアドバイスしました。

日中友好新聞福岡県連版

日中友好協会福岡県連合会
号外 2021年12月12日

小沢和秋さんを偲ぶ会「こ

二胡演奏中村博光氏

89歳で亡くなられた小沢和秋さん(元代議士・県議)を偲ぶ会が11月4日、中間市のハーモニーホールで235人の参加で執り行われました。

生前の御活躍ぶり、お人柄を示したスライドでの小沢さんの紹介、たくさんの方々が思い出と学んだことを語られました。愛娘のさつきさん(司法書士)からの、凛とした遺族代表のご挨拶がありました。

東大を出て八幡製鉄に就職されたばかりの小沢さんが、賃上げを求める労組の屋外決起集会の際、少雨を理由に幹部が取りやめようとしたとき、壇上に駆け上がり、予定通りの開催を訴え、満場の喝さいを浴びて、集会は開催されたという有名なエピソードも紹介されました。当時、全国に名だたる大労組での、時代状況を物語る武勇伝です。以来、現場労働者の衆望を担っての、若くしての労組執行委員に当選、その後の県議、代議士と目覚ましい活躍が続きます。

小沢さんの思い出集のなかに、協会大田宣也副理事長は「最も記憶にあるのは1960年代初めの『中国物産展』の頃です。物産展は東京・名古屋・福岡の3カ所で開催されました。この物産展が『文化大革命』の中国の大国主義干渉の重要で大きな糸口になったのです。福岡でも小沢さんなどを中心に干渉許さずの闘いが激しく展開されました」と寄せられました。協会北九州協議会の宮浦恵さんはご挨拶の後、二胡演奏の中村博光さんを紹介。中村さんの二胡演奏は小沢さんの思い出と共に心に響きました。

国会議員勇退後、2004年9月に出版された『この道ひとすじ』には、労働者の要求実現と美しい社会をめざして、明日の日本のためにみずみずしい情熱と不屈の闘志が込められています。